

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS
で検索



MONTHLY OF TOPICS

大阪大学発のベンチャー企業が新型コロナウイルスの簡易検査キットの開発に成功

大阪大学吹田キャンパスの同大産業科学研究所の一角にある大学発のベンチャー企業が、新型コロナウイルスの簡易な検査キットを開発し、11月から本格的な製造に乗り出した。標準的なPCR検査と違い、特別な機器や人員が不要で費用も1件1万円を下回る。当初は研究用だが医療機関用にも販売を広げていく構えだ。冬を迎え感染拡大が懸念されるコロナ問題では検査の拡充も懸案の一つだ。今回の新技術がその解決の一助となる事が期待される。

この企業は「株式会社ビズジーン」。DNA研究が専門で大阪大学産業科学研究所の特任准教授だった開発邦宏社長(47)らが、2018年に設立した。遺伝子(英語でジーン)を可視化(同ビジュアライズ)する技術開発に取り組む。現在の陣容

は14人で、これまでアルコールへの耐性を調べる遺伝子検査キットや、酵母の遺伝子研究を踏まえた北摂産米による日本酒づくりなどを手がけてきた。

今回のコロナ検査キットは、熱帯地域のウイルス性疾患・デング熱の簡易検査キットを開発してきた経験を生かせないかと、2月に計画を始めた。だが開発費用が問題だった。そこでインターネットで支援を募るクラウドファンディングを活用、目標金額は300万円だったが、4月中旬までに1,527人から2501万9,000円が集まった。開発社長は「この問題についての人々の不安やキットへの期待の高さを感じた」と言う。この支援で数年かかることも覚悟していた開発は加速、年内の製造開始につながった。

ビズジーンの手法は、コロナについてのPCR検査、抗原検査、抗体検査のうち、抗

原検査にあたる。PCR、抗原検査は「今感染しているか」を調べ、抗体検査は「過去に感染していたか」を明らかにする。同社によると、特徴は「核酸クロマト法」という独自技術にあり、従来のPCRや抗原検査に比べ、病原体の遺伝子を簡単かつ正確に検出できる。通常検出には抗原(ウイルス)に結合する抗体が2種類必要だが、同社の技術は1種類で可視化できるという。

PCR検査は検査機器と熟練した技術者が必要だ。結果判明まで6時間程度かかり、検査数にも限界がある。一方、同社のものは、使い切りの長さ6.5cm、幅1.8cmのプラスチック製キットに唾液を事前処理した液を垂らし、15分観察して線が現れれば陽性と判断できる。PCRは一般的に3~5万円ほどかかるのに対し、医療用は定価6,000円(税抜)。特別な知

識も不要でインフルエンザ検査のように小さなクリニックでも導入可能だ。研究用も1万円以下で提供する予定。

ただ、遺伝子を増幅するPCR検査に比べると「感度」が低く、感染初期の人からの検出は難しい。発熱などの症状のある人に有効な検査だ。陽性なら治療に移り、陰性ならインフルエンザなどの感染を確認し、問題がなければ様子を見るということになる。

当初の製造は唾液を使う研究用で月約3万個の生産から始める。研究用も唾液を使用。医療機関用は、唾液よりウイルス量が多いとされる鼻の奥の粘液を専用の綿棒で採取する仕様とする。開発社長は「この技術は世界で我々だけのものと自負している。医療用は来年3、4月には100万個単位の製造を目指したい」と話す。

2年前に会社を立ち上げた開発邦宏さん。神戸大学で遺伝子を学び博士号を取得。オックスフォード大学でウイルスの遺伝子の検出法を研究した。これまでデング熱の簡易検査キットなどを手掛けている。同社のアルコール耐性検査キットや日本酒はホームページ(<https://www.visgene.com/>)から注文できる。

数分で陽性者と判定する新型コロナウイルスの簡易検査キット。11月に完成したパッケージ。

SOCIAL 豊中市 キッチンカー実験 夏に続き2回目を実施中

豊中市は10月、公園や住宅街で夏に実施したキッチンカーの社会実験の結果を公表した。結果を踏まえ、2回目はさらに期間を延ばし、11月から来年1月末まで実験を実施している。

市では市民生活の利便性向上のため、キッチンカーの仲介事業を手掛ける東京の事業者と連携し、キッチンカーを出店させる社会実験を今夏に行った。期間は8月17日

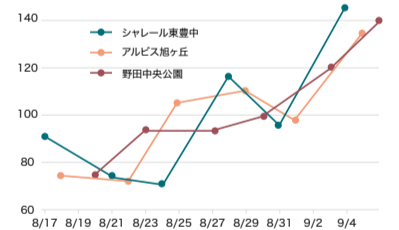
~9月6日、場所はシャレール東豊中(東豊中町6)、アルビス旭ヶ丘(旭丘2)、野田中央公園(野田町9)の3か所それぞれ毎週2日・計18日間実施。イタリア料理店「クッチーナカサイ」が手掛ける「モナの幸せごはん」とたこ焼き店「咲たこ」の2店が出店した。

全日程に参加したクッチーナカサイには計966人が来店。回を重ねるごとに口コミやメディアでの紹介もあって周知が

広がり、売上率の上昇がみられた。購入者の年齢層は30~70代以上と幅広く、子育て世帯・高齢者など外食が難しい人からは「徒歩圏内で気軽に本格的な料理が食べられてうれしい」などの声もあり、地元住民からは好評だったという。

アンケート調査では、継続希望や、開催場所やジャンルなどを増やしてほしいなどの要望もあった。市内のキッチンカー事業

売上率の推移



全日程の平均売上率を100とする。クッチーナカサイのみ。

者の参入を促進するため、開業支援のセミナーを11月2日に実施。今後も社会実験の結果を踏まえ、実施場所の拡大や継続実施に向けた検討を進めていくという。

SOCIAL 安威川ダムで定礎式

11月14日、茨木市の安威川ダムで定礎式が行われ、参加者約40人がダムの安泰や工事の安全などを祈念した。出席した大阪府・吉村知事は「ダムによる治水効果の発揮を期待して、安全かつ着実に工事を進めていきたい」など話した。

ダムは1967年の北摂豪雨で61人の死傷者を出したことを受けて計画され、紆余曲折を経て2014年からダム本体

の工事が開始した。ダムは高さ76.5m、貯水量は1,800万m³(「京セラドーム大阪」約15杯分)になるという。再来年春の堤体完成を目指している。



定礎式当日の様子

CULTURE 11月に万博で「千里キャンドルロード」年内に動画公開

今年で9回目を迎えた「千里キャンドルロード」(同プロジェクト主催)が11月14日、今年は万博記念公園で無観客にて開催された。点灯の様子は動画に収められ、年内にも公式サイトなどで公開される予定という。

2012年から始まったプロジェクトは例年、千里ニュータウンの公園で住民によって9万個のキャンドルを点灯していた。今年は新型コロナウイルス対策で「密」を

避けるためやり方を変更。大阪万博50周年を迎えた万博記念公園とのコラボレーションで、同園内の「自然文化園」で約1.6万本のキャンドルを並べた。



11月14日の「千里キャンドルロード」の様子